

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び

II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成

III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築

IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成

V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【札幌市】

1 実践テーマ	【I、III、V】
2 実施対象者	札幌市立篠路小学校 4年生102名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（ 体育、特別活動、総合的な学習の時間 ） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目 標 (ねらい)	札幌市が冬季オリンピックを開催した時に使用したスポーツ施設や博物館を子どもが見学することで、オリンピック・パラリンピック事業に興味をもつとともに、生涯スポーツを愛好し運動習慣をつくるきっかけとする。
5 取組内容	札幌市大倉山にある博物館を本校4年児童が訪れ、見学をする。 交通手段は札幌市が提供したバスを利用する。 まず、博物館を訪れ、当時の写真や競技用具を見学した。質問から学ぶ場面もあった。 次に大倉山のジャンプ台に上り、高い所から見る体験を行った。 ○指導計画 [4時間扱い] 「保健・体育科」1時間 体づくり運動（体のバランスをとる運動） 実際のジャンプ台に体を置き、選手と同じ気持ちになりながら、身体のバランスを取る 「総合的な学習の時間」2時間 札幌市の運動施設に行き、実際に見学するとともに札幌市のウィンタースポーツの歴史や街の発展に興味をもち、主体的に学ぶ。 「特別活動の時間」1時間 学校行事として校外学習に参加し、集団で行動するとともに、公

	共施設を利用することで公共の精神を養うことができる。 
6 主な成果	日常の家庭生活ではなかなか訪れることが少ない施設である（事前の子どもへの聞き取りではそうだった）。スポーツ施設や博物館を初めて見学した子どもは目を輝かせていた。また、スキージャンプ台からの光景は多くの子どもの心に残った壮大なパノラマであった。 博物館では、1972年に行われた札幌冬季オリンピックの写真が品物を見た。写真や競技用具は子どもたちには新鮮に映っていた。 子どもの感想としては、「すごい。ジャンプ台が大きかった。」や、「こんな高い所から飛び葛西選手や高梨選手はすごい。憧れる。」など、好意的だった。 現在、東京オリンピックが間近に迫り、札幌市でも再び誘致活動を展開している現代の「札幌っ子」が実際に見学をすることができた。東京オリンピックのマスコット投票、2月の平昌オリンピック・パラリンピック中継につながる校外学習になった。
7実践において工夫した点（事業の特色）	取組の内容に記載した通り。
8主な課題等	日程がなかなか決まらず、学校行事との調整が難しかった。最終的に12月後半の日程となり、子供たちにとってかなり寒い時期となった。教育課程編制の際に、次年度以降は計画的に位置付けていかないとならない。
9来年度以降の実施予定	経費や講師の確保等、持続可能な仕組みづくりを検討している。